

## 久し振りのコンサート

塚田 實

娘から電話がかかってきた。「お父さん、ブロムシュテットという指揮者知ってる」「どうして」「十月にNHKホールでブロムシュテット指揮のコンサートがあるのだけれど興味ある?」「勿論さ」「じゃあ切符二枚手配しておくわ」

一九八〇年代の後半、半導体ライセンス交渉のため、シリコンバレーに度々出張していたとき、週末コンサートに誘われたことがある。サンフランシスコ交響楽団の演奏で指揮はヘルベルト・ブロムシュテット、曲はベートーヴェンの交響曲第七番で素晴らしい演奏だったことを覚えている。

ブロムシュテットは現役指揮者としては最高齢の九十五歳で、しかも彼は六月末演奏会のリハーサルで転倒したとの報道があり、来日が危ぶまれたが、十月十六日コンサートは無事開催された。

NHK交響楽団のメンバーが入場した後、ブロムシュテットがコンサートマスターの篠崎史紀の腕につかまりながら現れ、指揮台の椅子に座った。この日の演目はマーラーの交響曲第九番。第一楽章は約三十分の長丁場だった。そして第二、第三楽章と進み、最後の第四楽章ではオーケストラ全体が盛り上げて、最後は弦楽器だけが演奏し、マーラーが「死に絶えるように」と指示するところでは、ビオラの最弱奏で静かに終わった。

演奏が終わっても、指揮者は余韻がホール全体にしみこむように約一分近くも指揮棒を下ろさない。静寂がNHKホールを満たした。聴衆もまったく動かない。やがて指揮者はゆっくりと指揮棒を下ろし、会場は嵐のような拍手で満たされた。何回も聴衆の拍手に応え、コンマスに支えられ、静かに退場した。拍手は止まない。コロナ対策で誰も声を出さない。ただ拍手だけが鳴り響く。一旦舞台袖に退いた指揮者は再び二人の演奏者に抱えられて舞台に戻り、観客の拍手に応えた。

久し振りのコンサートでは、実演で初めて聴くマーラーの交響曲第九番を充分堪能し、高齢の指揮者の音楽に捧げる情熱に深く感激した。